



10月に入りましたが、今年はまだ日中の暑さが残り、季節の変わり目をなかなか感じにくいですね。それでも、空を見上げると高く澄み渡り、夕暮れが少しずつ早くなってきて、秋の気配を感じるようになりました。

春から半年が過ぎ、子どもたちの姿にもたくさんの成長が見られるようになってきました。新しい環境や活動にも少しずつ慣れ、自分なりのペースで前に進もうとする姿が、とても頼もしく感じられます。

子どもたちの成長には「ゆっくり」と「じっくり」がとても大切です。うまくいかない日があっても、その中に必ず小さな変化や頑張りが隠れています。どうぞ焦らずに、お子さまの「いま」を一緒に楽しんであげてくださいね。

「育ち」では、そんな一人ひとりの歩みに寄り添いながら、作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・保育士・児童指導員がチームで支援しています。活動の中での「できた!」や「やってみよう!」の気持ちを丁寧を受け止め、子どもたちが安心して自分らしく成長できる環境づくりを大切にしています。

季節の変わり目で体調も崩しやすい時期です。どうぞお家でも無理せず、ゆっくりとした時間をお子さまと過ごしてくださいね。

公開療育で学び合う「育ち」の取り組み ～チームの学び合いを通して～

鹿児島市では、障害児通所支援事業所が互いの支援内容や環境づくりを学び合う「公開療育」を推進しています。その目的は、「事業所間で学び合い、支援の質を高めるとともに、地域全体で子どもたちの成長を支える力を育むこと」です。その趣旨を大切にしながら、私たちも他事業所との交流を通じて、より豊かな支援をつくっていかれたらと思っています。

「育ち」では、7月・8月に全事業所で公開療育を実施しました。普段の療育を多くの関係機関の方々にご覧いただく機会は、私たち職員にとっても大きな学びの場となりました。日々の支援をどのように見せるか、どんな意図をもって活動を構成するかを一つひとつ丁寧に考えながら取り組んだことで、職員一人ひとりが改めて自分たちの療育を振り返る貴重な時間になりました。

実施にあたり、各事業所の職員が試行錯誤を重ね、子どもたち一人ひとりの姿に向き合いながら取り組んだ姿は、多くの方から高い評価をいただきました。大変な準備の中にも、子どもたちの成長を願う職員の思いが込められていました。

そして、10月・11月には「育ち」の職員が他事業所の公開療育を見学させていただきます。現場での工夫や温かな関わり、環境設定など、他事業所から学び得た「気づき」や「感心したこと」を、月に一度の事業所内研修で共有し、どのように「育ち」の支援に生かしていけるかを話し合う予定です。

このような学び合いの機会は、子どもたちへの支援をより豊かにするだけでなく、職員一人ひとりの専門性を高め、チームとしての成長にもつながります。互いに学び合い、高め合う「チームの学び合い」をこれからも大切にしていきたいと思います。

職員がそれぞれに刺激を受け、子どもたちの笑顔につながる新しい工夫が「育ち」に広がっていくことを、今からとても楽しみにしています。

県民週間 ～この期間に、就学予定先の学校を見学してみるのも良いかもしれませんね～

鹿児島県の「県民週間」は、毎年11月1日から7日までの期間に実施され、「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」として県教育委員会が定めています。地域と学校、家庭が一体となって子どもたちの育ちを支えることを目的に行われています。

この期間中は、各学校で自由参観や公開授業、地域の方との交流行事など、さまざまな取り組みが行われます。実際に学校を訪れることで、先生方や子どもたちの様子、学校の雰囲気を感じ取ることが出来ます。

就学を控えたお子さまをお持ちの保護者の方にとっても、学校生活を具体的にイメージできる良い機会になると思います。お子さまと一緒に「どんな場所で、どんなふうに学んでいくのか」を話し合ってみるのも良いですね。

※参観できる日や内容は学校によって異なります。お出かけの際は、事前に各学校のホームページなどでご確認ください。

チーム「育ち」 ～人と人とのつながりの中で～

「育ち」は、人との“つながり”を何よりも大切にしてきました。

その原点には、名誉会長・中治隆の存在があります。中治は、「人を大切にする」「心でつながること」を何よりも重んじ、創設当初から職員一人ひとりを温かく見守っていました。

9月28日、3回の中治の命日を迎えました。あらためて思うのは、今の「育ち」を支えているのは、中治が築いてくれた“人の絆”だということです。中治が集めた初期の職員や顧問の先生方を中心に、今もなお、お互いを思いやり支え合う関係が受け継がれています。

名誉会長が亡き後も、職員同士が自然に新しい仲間を誘い、「この職場で一緒に働きたい」と思える温かい空気が広がっています。それは、中治が遺してくれた“人を信じる力”が今も息づいているからだと思います。

また、利用児のつながりも、人から人へと温かく広がっています。

「育ち」の支援を受けてくださっている保護者の方が、「ここ、いいよ!」と知り合いの方に勧めてくださったり、保育園・幼稚園の先生方、関係機関の方々が「こういう支援が合うのでは?」と「育ち」を紹介してくださったり。そうした一つひとつのご縁が、新しい出会いへとつながっています。

その背景には、「育ち」を信頼し、支えてくださる多くの方々の想いがあります。名誉会長が大切にしていた“人と人との信頼関係”が、今も確かに息づいている証だと感じます。

これからも、「人とのつながり」を大切にしながら、皆さんからの信頼に応えられるよう、職員一同、日々研鑽を重ねてまいります。

各事業所から

第1事業所

①今月の行事

10月20日 避難訓練(火災)

②第1事業所では・・・

季節の製作として「栗づくり」を行いました。栗のイガイガの部分は、トイレトペーパーの芯を使った手作りスタンプで表現し、その上に栗の形に切った画用紙を貼って完成させました。子どもたちは、栗にかわいい顔を描いたり、周りを自由に飾りつけたりと、それぞれの“オリジナル栗”づくりを楽しんでいました。

なかには「栗の中身を初めて見た!」という子もいて、製作を通して季節を感じながら新しい発見ができたようです。

これからも、子どもたちが季節の変化を感じ取れるような活動を取り入れていきたいと思っています。

第2事業所

①今月の行事

10月6日 避難訓練(火災)

②第2事業所では・・・

10月に入り、朝夕の空気に少しずつ涼しさを感じるようになりました。

そんな中でも、来所する子どもたちは元気いっぱい!汗をかきながら、毎日さまざまな遊びを楽しむ姿が見られます。

小学1年生の子どもたちは、少しずつ学習内容が難しくなる中でも、普段の学びを振り返りながら、一生懸命に宿題へ取り組んでいます。

また、児童発達支援のお子さんたちも、園での行事や練習などで疲れが見られる日もありますが、事業所での活動課題に熱心に取り組む姿が印象的です。

日々、子どもたちが成長していく姿に驚かされることばかりです。私たち職員も、そのスピードに負けないよう、支援の質をさらに高めていきたいと思っています。

第3事業所 ①今月の行事

10月27日 避難訓練(不審者)

②第3事業所では・・・

朝晩は涼くなりましたが、日中はまだ汗ばむほどの暑さが続いています。

子どもたちの会話からは、運動会に向けて一生懸命に練習に取り組む姿や、その中で感じる頑張りが伝わってきます。

行事前は環境の変化から、情緒が不安定になりやすい時期でもあります。 ↗

日頃からもそうですが、そんなときこそ「頑張っているね」と声をかけて、たくさん抱きしめてあげてくださいね。

職員も、子どもたちへの支援の質をさらに高めるために、公開療育や各種研修へ積極的に参加し、日々学びを深めています。学んだことを日々の療育に活かしながら、よりよい支援につなげていきたいと思っています。

季節の変わり目で体調を崩しやすい時期です。ご家庭でも健康に気をつけながら、「実りの秋」「運動の秋」を子どもたちと一緒に楽しみましょう。